

human

No224

2010/12

医療を通じて人と人とのふれあいを広める
ためにヒューマン(人)と名付けました。



「Merry Christmas」

救急指定・労災指定病院	さくら総合病院	愛知県丹羽郡大口町新宮1-129 (0587)95-6711(代)
老人保健施設	さくら荘	愛知県丹羽郡大口町新宮1-96 (0587)95-6722
訪問看護ステーション	あすかビレッジ	愛知県丹羽郡大口町新宮1-129(さくら総合病院2F) (0587)95-8623
ヘルパーステーション	あすかビレッジ	愛知県丹羽郡大口町新宮1-129(さくら総合病院2F) (0587)95-8026
居宅介護支援事業所	あすかビレッジ	愛知県丹羽郡大口町新宮1-129(さくら総合病院2F) (0587)95-8027
デイケアセンター	御 嶽	愛知県丹羽郡大口町新宮1-129(さくら総合病院2F) (080)5294-5728
有料老人ホーム	太郎と花子	愛知県丹羽郡大口町新宮1-10 (0587)95-0111



<http://www.ijinkai.or.jp>

E-mail: info@ijinkai.or.jp

心のリハビリ

院長 小林勝正

「あれ、まだ死んでなかった？」「院長、ムチャ言っとるわ、すぐワシを殺すぞな」。こんな怖い会話がリハビリ問診室で交わされる。特定の人に対してだけでなく、多くの人に対してこのような会話がまた返ってくる。「いやあ、生きとった！」「院長も歳とったねえ」。こんな会話がもし病院の診察室で他の患者さんに聞かれたら、どういう病院かと思われそうだ。30年近くも前からの知り合いで、半年、一年顔を合わせなかつた患者さんだからこそ許される会話である。もちろん30年近く前であれば、私も若かつたし患者さんも若かつた。そして、治療した病気も外

科系の病気で私の手にかかつた人もいる。ところが今や私も公費負担で補助金ももらえる年齢になり、ついに高齢者医療に片足をつっこんだ年齢になったのである。当然、診察室で会う患者さんも同じように歳をとっている。下手をするとなら私より患者さんのほうが身動きが良い。そんな方たちでも脳卒中やガン、心臓病などを患うと十年余分に歳をとってしまったように見える。当然、体のポロポロの状態は、私と良い勝負である。だから中には「院長の葬式のときは出席するですよ」「多分、私のほうが先でしょ」などの会話になってしまう。しかし、生きている限

り、自分を含めて体のリハビリは欠かせない。ちょっとした風邪をひいて2、3日高熱を出すともう足取りが典型的高齢者のヨチヨチ歩きになる。妊婦さんのドタドタ歩きを滑稽に見れない今日この頃である。そんな私でも、リハビリ問診で毎日患者さんの顔を見るのが楽しみである。患者さんからも「院長の顔を見ると元気が出る」という言葉をいただける。こんな顔のどこが元気の源になるのかわからないが、確かにリハビリ問診室に杖を忘れていくおばあちゃん、たどたどしく歩いて入ってきたおばあちゃんが、杖を抱えてスタスタ出て行くのを見ると、やっぱりこの顔で良かったのかなと思う。30年近く前にはまだヨチヨチ歩きのお孫さんの面倒を見て「膝が痛い、腰が痛い」と訴

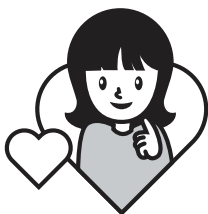
えていた女性が、車椅子に乗せられてその孫に押されて受診してみえる。「手のかかるおばあちゃん」に言わせればとんでもない。「お世話になったのはあなたたちではないか」と言いたい。リハビリ問診で声だけかけると若い患者さんは「なんだ、これだけのことか」という顔をされる。私に言わせれば「なんだ、これだけのこと」だけではない。医師たるものは瞬時に患者さんの状態を見分けるには何十年と培われたプロフェッショナルとしての診断能力が存在するのだ。問診、視診という診断方法だけで相当の診断ができる。歳をとつたバアちゃんも、歳をとつたジイさんに診察を受けたくもなからう。お互いにバカを言いながら、いつもの挨拶でもって、いつもの診

療ができるのなら、それが一番気心が知れた間柄ではないか。「ええ、いらっしやい！」「いつもの！」という掛け声だけでお互いに分かり合えるのなら、こんな信頼関係はないはずである。肉体的に言えば、人間は25歳をピークとして毎日毎日老化の一途をたどる。いわんやそのピークの時期から25年、35年と過ぎれば明らかに老いそのものである。ケンタッキーフライドチ

キンの骨の切り口は小豆色をしている。これを赤色骨髓と言う。まだ骨の髄で血液を造る造血機能を持った若い骨である。これが歳とともに赤色骨髓から黄色骨髓となつて造血機能が無くなつていく。黄色の原因は脂肪である。もしケンタッキーフライドチキンの骨が黄色であつたら、これはバアさんの肉を食べさせられたと判断して、その店に文句を言つてもいいだろう。人間にとつても全く同じ状態で、年齢とともに骨髓の造血機能は失われ、骨自体のカルシウムも失われていく。高齢者の骨は骨というよりも発泡スチロールに近くなつてしまう位にもろくなつていく。若い人がスポーツ中に受傷して「ポキッと音がしました」と言つて運ばれるが、老人の骨折の場合は音がなく痛みで発症する。「座布団につまづいて足を捻つたんですよ」とか「ちよつと尻もちをついただけなのに」という受傷起点で既に骨折している。骨がカスカスのために音もしないのである。幼児の骨折は3週間で仮骨ができてきてレントゲンに写るようになる。3週間

の短期間であれば関節の癒着もなく、骨折がくつき次第、関節を動かせばリハビリも必要ない。ところが大人の骨折の治癒には最低6週間かかる。関節は癒着し、もう一度以前の機能を取り戻すのに6週間の倍、すなわち最低3ヶ月を要する。しかも、筋力の低下は甚だしい。それを加味すると6ヶ月は必要となる。そうして治つた骨もフライドチキンの骨まで回復するわけではない。そして、骨折した場所だけではなく、体全身の骨がカスカスで穴だらけな訳である。一度、大腿骨頸部骨折を起こした人が2〜3年以内に反対側の骨折を起こすことが多いことは整形外科の医者なら誰でも知っている。ところが、厚生労働省にしても、また骨折した本人ですら

喉もと過ぎれば熱さは忘るるである。そのため、リハビリ期間を限定したり、「もうリハビリは終了しました」などと残酷なことを言う。「今回のリハビリは終了しました、次の骨折の後にまたリハビリを頑張りましょう」と言えるものか。治療する側も治療を受ける側も歳をとり、共にカスカスになつていく訳だから、自分の健康を守るためにも自分で頑張るより仕方がないのである。肉体のリハビリのみならず、心のリハビリをしながらともに生きている限り声を掛け合い、心の旅路を進んで行こうではありませんか。



『さくら総合病院での2年間を振り返って』 口腔外科 中村大輔

愛知学院大学歯学部顎口腔外科学講座より、さくら総合病院に赴任してから2年近くが経ちました。この2年近くを振り返ると、仕事を通じて非常に多くのことを勉強させて頂いたと思います。それは、今後の私の歯科医師人生にとって役に立つことばかりです。この場をお借りして、勉強させてもらったことの一部を紹介させて頂きたいと思います。

私の働いている当院のデンタルセンターは、愛知県下唯一の365日24時間救急歯科外来診療を行っています。当院周辺地域はもとより、名古屋市や三河地方、岐阜県や三重県からも患者さんが来科されます。虫歯等の歯牙疾患で来科される方、顔面を負傷されて来科される方、他施設での処置後の出血・疼痛で来科される方と主訴も多様であります。また、年齢も下は0歳、上は90歳代の方まで受診されます。そのようなさまざまな状況で受診される患者さんですが、全ての方に共通することは「早く何とかして欲しい」という思いで来科されているということです。我々は、如何なる場合でもその期待に応えなければなりません。当たり前のことですが、その期待に応えるには早急な対応と的確な診査診断及び処置を必要とします。その為には冷静な対応、そして幅広い知識と経験がいかに大事なことなのかということを実際の救急診療を実際に行ってみて痛切に感じさせられました。まだまだ未熟者の私にとって、幅広い知識と経験というものは簡単に身に付くものではありません。どうしたら自分は今後救急診療をやっていけるだろうと悩みました。そんな中で困ったときには上司の先生に相談し、自分自身でも文献などを検索し、いろいろな症例を経験していく中で哲学者ソクラテスの言葉に「無知の知」という有名な言葉がありますが、まさに自分もただ知らない経験がないと思うのではなく、「自分は何を知らないか?」という無知の知こそがいかに大切なことなのかということに気づかされました。

2年近くが経ちましたが、失意泰然、得意冷然の気持ちを忘れず、毎日が勉強という気持ちで仕事に向き合いつつ、患者さんの喜ぶ姿、元気になっていく姿を励みにこれからも精進していこうと思っている次第です。まだまだ未熟者の私ではございますが、これからも頑張っていきますので皆様宜しくお願ひします。

健康管理相談室から **12月** のお知らせ

テーマ：『すぐ使える食事お役立ち情報』～カロリーダウン編～
 日時：平成22年12月25日土曜日
 13:00～14:00（受付12:30～）
 場所：新館1F
 講師：管理栄養士 馬場、勝野
 参加料：無料
 お問い合わせ：受付窓口もしくは医療連携室
 Tel 0587-95-0015



この機会に食生活を見直してみませんか?
 ご近所、ご家族お誘い合わせの上、お気軽にご参加ください。

ご存知ですか?

『ホームヘルプサービス』



ヘルパーステーション あすかビレッジ 大江 桂子

「ホームヘルプサービス」という言葉を聞いて、みなさんはどんなサービスだと思えますか?お手伝いさんを想像されるのでしょうか。

「ホームヘルプサービス」とは、「ホームヘルパー」の行うサービスのことです。

「ホームヘルパー」とは、肉体的・精神的に日常生活を送るのに支障のある高齢者や障害者にその生活面でのサポートを行う為に利用者の家庭に訪問し、サービスを提供する人のことです。サービスの内容は、「身体介護」と「生活援助」の大きく2つに分かれています。「身体介護」は、食事や排泄・入浴の介助など直接利用者様の体に触れるサービスです。「生活援助」は、掃除や洗濯など日常生活に必要なサービスを提供する「家事援助」サービスを基本としています。「家事援助」サービスはお手伝いさんでも行うことができますが、「ホームヘルパー」が行うことと大きな違いがあります。「ホームヘルパー」は、あくまで「自立支援」を目的とした公的サービスであることです。お手伝いさんは、個人契約で全て費用も自己負担です。「ホームヘルパー」は、介護保険を使用します。そのために、保険適用のできる範囲が厚生労働省告示で定められています。この「保険適用」というのが、サービスを受けにくく感じさせるかもしれません。「ホームヘルパー」は、いつでも柔軟に利用者の要望に応じていく用意はしていますが、保険適用のサービスのために、予め「介護計画」というものが必要になります。生活に困ったことがあるときには、契約のある「ホームヘルパー」に話をしてみるのがいいでしょう。しかし、まだ利用したことが無いけれども手助けを必要とするときは、「ケアマネジャー」と呼ばれる「介護計画」を立てる人に相談をしてみましょう。

(さくら総合福祉センターでは、「ケアマネジャー」や「ホームヘルパー」がいます。利用者の「困った」声をお聞かせください。)

『認知症と介護施設』

さくら総合福祉センター 事務長 前田

認知症とは、後天的な脳の器質的障害により、いったん正常に発達した知能が低下した状態をいう。これに比し、先天的に脳の器質的障害があり、運動の障害や知能発達面での障害などが現れる状態を、知的障害といいます。

日本では高齢化が進むに伴い、介護施設はもちろん、認知症の対策も重要な問題となっています。しかし、重要な問題点は内部の対応の仕方よりも、在宅で対応が不可能な方に対する介護施設の数が不十分であることです。

一般的に認知症の方が入居可能な介護施設は、グループホームが主なところになりますが、収容人数が小規模であるために十分でないこと。そして、スタッフ配置や知識の習得が難しいことなどから現実的にはあまり増加していません。さらに、認知症以外の疾病が元々あると受入が難しく、入所当時は疾病がなかったとしてもその後、発症したり外傷により動けなくなったりすると退所しなければならないケースもあるようです。その先の受入れ施設として老人介護保健施設(老健)の認知棟か有料老人ホームがありますが、老健は満床状態が多くなかなか困難ですから今後は有料老人ホームが受け皿的にならざるを得ないでしょう。そう考えれば認知症を在宅で介護しているご家族の方には心強くなるのではないのでしょうか。

(参考)

認知症グループホームの本旨は、「認知症の方が小規模な生活の場で少人数(5人から9人)を単位とした共同住居の形態で、食事の支度や掃除、洗濯などをスタッフが利用者とともに共同で行い、一日中家庭的で落ち着いた雰囲気の中で生活を送ることにより、認知症状の進行を穏やかにし、家庭介護の負担軽減に資することにあります。

認知症グループホームでは、認知症の方にとって生活しやすい環境を整え、少人数の中で「なじみの関係」をつくり上げることによって、生活上のつまずきや行動障害を軽減し、心身の状態を穏やかに保つことができます。また、認知症の方に対しては、過去に体験したことがある役割を与えるなどして、潜在的な力に働きかけます。こうして、高齢者の失われかけた能力を再び引き出し、「生活様式を再構築する」ことが可能になります。

診療科表

平成22年12月1日現在

No.224 (6)

human

	午前 9:00~12:00										午後 5:00~7:30									
	外科	内科	整形外科	脳神経外科	小児科	皮膚科	耳鼻科	泌尿器科	婦人科	眼科	外科	内科	整形外科	脳神経外科	小児科	皮膚科	耳鼻科	泌尿器科	婦人科	眼科
月	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
火	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
水	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
木	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
金	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
土	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
日	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

- ※1 休診日もございます。
- 診療時間に関しては、受診されます診療科目により異なります。
 - ご不明な点がございましたら、職員に確認して下さい。
 - 診療日が変更になる場合があります。ご了承下さい。

機関紙 発行 医療法人 医仁会 電話 0587(95)6711(代)
 human ヒューマン さくら総合病院 発行年月日 2010年12月1日
 No.224 丹羽郡大口町新宮1-129 発行部数 250部